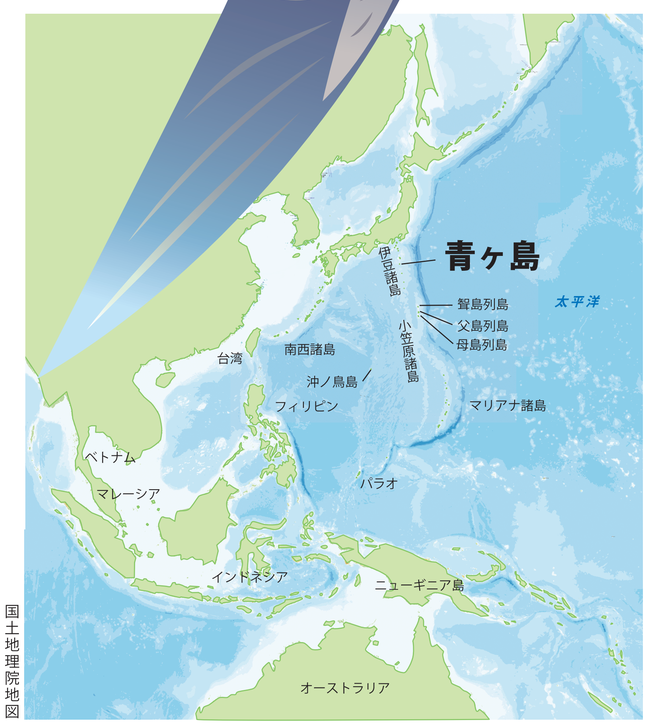
小笠原諸島～伊豆諸島ツバメの渡り調査 2023

青ヶ島の春のツバメ

重原美智子



国土地理院地図

はじめに

私は、2018年の春から小笠原諸島や伊豆諸島に飛来するツバメ（*Hirundo rustica*）の生態を島民の方達と協力して調べている。各島の観察記録をつなぐことで、広い太平洋を越えて飛来するツバメの渡りを明らかにしたい。

調査の目的

海上を長距離移動するツバメにとって、島はエネルギーを補給するための中継地である。春の渡りの場合、越冬地から北上してくるが、青ヶ島ではツバメたちはどのような場所を利用しているのだろうか。その実態を探るために調査を行った。

調査の方法1　2018年から2022年の5年間

ツバメの観察記録募集のお知らせのチラシを船客待合室、島役場、ヘリポート、商店などに送付して、島民や観光客から記録を集めた。

調査の方法2　日程：2023年4月14日～19日

2022年までの記録から、4月中旬に数多く飛来することがわかっていたのでその時期に、青ヶ島を訪問した。現地では徒歩とレンタカーで可能な限りツバメを探した。

青ヶ島の特徴

東京から南へ約 360km。
伊豆諸島の有人の島のなかで最南端の島で、二重式カルデラ構造のある火山島。
人口　168 人、東西　約 2.4km、南北　約 3.5km
周囲　約 9km 面積　約 5.96 ㎢
東京都統計（令和 5 年）、国土交通省、青ヶ島村役場 HP より



4 月 18 日 18：20　尾山展望公園から、大凸部方向を見た。18 羽が確認できるが、撮影中前後左右にも多数飛翔していた。



4 月 18 日　10：10　尾山展望公園。池之沢上空をツバメが飛翔していた。



国土地理院地図



4月14日13：00 集落の中心を通る都道。十一屋酒店ちかく。この先の電線にツバメが飛来した。



4 月 18 日 9：40　集落内の都道、駐在所さき。

4 月 16 日 15：08 都道、休戸橋さき。斜面の向こう側から繰り返しツバメがあらわれた。



4 月 18 日 15：30　池之沢の丸山の頂上付近で飛翔



2023 年 4 月 16 日 17：40　大凸部から池之沢を見た。
夕陽が外輪山の斜面に当たる。
下山時、島の西斜面でツバメの群れを観察した。

結果　6年間の春の観察記録の合計と観察された場所

2018年から2022年までの5年間で、24件、合計で150羽のツバメが観察された。
2023年の春は、島民の記録と私の記録を合わせて、25件の観察記録があり、合計羽数は175羽だった。

羽数について：飛翔しているツバメの数は正確には数えられないので、例えば 4～5 羽という記録の場合は 4 羽というように小さい方の値を採用した。

2018～2022 年の 5 年間　春の結果

番号	年	月	日	時刻	羽数	場所
1	2018	3	3		10	十一屋酒店前
2	2018	3	5		12	十一屋酒店前
3	2018	3	18		1	十一屋酒店前
4	2018	4	1		3	大凸部
5	2018	4	2		3	集落
6	2019	3	15		5	集落
7	2019	3	22	16:00	5	尾山展望公園
8	2019	4	13		30	十一屋酒店前
9	2019	5	12		1	海岸
10	2020	3	15	12:30	10	池之沢
11	2020	3	15		1	池之沢
12	2020	3	22		3	丸山
13	2020	3	25	15:30	2	大凸部
14	2020	4	5		1	集落
15	2020	4	9		30	集落
16	2021	3	19		1	池之沢
17	2021	3	24		10	集落
18	2021	4	20		8	小中学校
19	2021	5	9		1	池之沢
20	2022	3	16		3	尾山展望公園
21	2022	3	29	16:00	4	池之沢
22	2022	5	14		3	大凸部
23	2022	6	7		2	大凸部
24	2022	6	17		1	大千代港へ下る道

5 年間の合計羽数　150

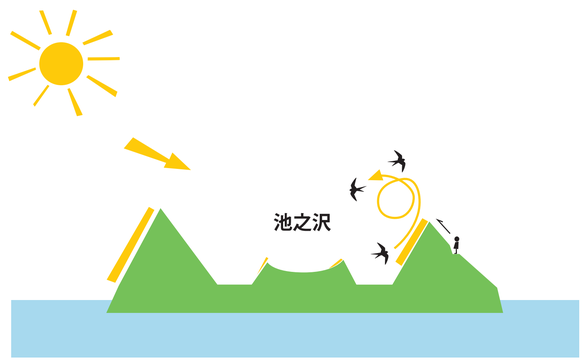
2023 年　春の結果

番号	年	月	日	時刻	羽数	場所
1	2023	3	15	ー	1	集落
2	2023	4	12	9:56	10	大千代港へ下る道
3	2023	4	14	13:00	20	十一屋酒店前
4	2023	4	14	13:23	2	十一屋酒店前
5	2023	4	14	13:43	3	取水場上空
6	2023	4	14	17：30～18：00	10	尾山展望台
7	2023	4	15	6:05	5	NTT アンテナ付近
8	2023	4	15	9:20	5	ジョウマン共同牧場
9	2023	4	15	9:35	1	集落
10	2023	4	16	15:08	1	都道、平成流し坂トンネル手前
11	2023	4	16	18：25～	20	大凸部、登山道入口付近
12	2023	4	17	15:30	5	都道、休戸橋さき
13	2023	4	17	16:05	1	都道、平成流し坂トンネル手前
14	2023	4	18	9:30	5	都道、駐在所先
15	2023	4	18	10:10	1	尾山展望公園
16	2023	4	18	10:20～12：30	20	尾山展望公園
17	2023	4	18	14:55	2	大里神社下
18	2023	4	18	15:20	7	池之沢
19	2023	4	18	15:20	5	池之沢
20	2023	4	18	17:39	1	都道、休戸橋さき
21	2023	4	18	18:05	10	取水場
22	2023	4	18	18:10～	30	尾山展望公園
23	2023	4	19	5:20	2	神子ノ浦展望公園
24	2023	4	19	5:47	1	グリーンセンター
25	2023	4	19	9:30	7	ヘリポート海岸崖下

2023 年春の合計羽数　175

考察

ツバメは日中、森林の斜面や山の稜線の上空、取水場周辺の草原周辺などで採餌をしていた。日光により上昇気流が生じるような場所を利用していると考えられた。また、陽がしずむ時間帯に、地図で青く示したあたりで、集団で飛行し採餌をしていた。ねぐらをとったと考えられた。



ツバメが利用する考えられる陽が当たる場所の模式図

謝辞：この調査では旅行者やその島に住む人のツバメの観察記録を集めることが最も大切なことである。2020年からはコロナ禍もあったなか、日常の暮らしの中で得られた島民の方の観察記録はツバメの渡りを調べるために大変貴重であった。
青ヶ島村役場、小笠原海運、東海汽船、東邦航空、宮城ヨーコさん、佐藤悠子さん、鈴木秀歩さん、小林みどりさん、伊藤舜さん、高木健雄さん、藤井智久さん、特に荒井智史さん、角田崇史さんの両氏には大変お世話になった。心からお礼を申し上げます。

公益信託サントリー愛鳥基金の助成
2020年度　第15回「地域愛鳥活動助成」部門

バードリサーチ
調査研究支援プロジェクト